

「内藤多仲」博士

DR. Tachuu Naitoh



榊形生涯学習センター内にある1/75の東京タワー

日本を代表する東京のシンボルとして大きく君臨している東京タワー。このタワーができたのは昭和33年。全国には老朽によるタワーの解体があるなかで、築40年を超えて今も現役で勤めを果たしているタワーがあります。そのほとんどの設計をしているのが、塔博士と呼ばれた内藤多仲によるものです。

内藤多仲は、明治19年6月、榊形地区曲輪田で生まれました。自叙伝「日本の耐震建築とともに」の中で、自分の名前について「私の名前は珍しいのか、子どものころから成人するまで、多仲の名前の由来をよく聞かれたものだ。長男の私が生まれたとき、凝り性の父は、昔信州松本にいた多仲と名乗る立派な豪族のような人になるようにと名づけてくれた」と書いています。

第一高等学校では夏目漱石にも学ぶ

地元の尋常小学校を終え、小笠原の高等小学校へ通学、そして旧制甲府中学（現県立甲府第一高）から東京の第一高等学校を経て、東京帝国大学を卒業します。そのころ、山裾の小さな村から甲府の中学校へ通う生徒は非常に珍しい時代でした。

建築界に業績を残すだけでなく、教育にも尽力し、保育園や幼稚園の子どもたちには「大きく輪になれ」、小学校の児童には「積み重ね 積み重ねても また積み重ね」を、そして中学校の生徒には「高登彼岸」のことばを残しています。

博士の主な褒章等

- 昭和33年 紺綬褒章
- 昭和34年 紫綬褒章
- 昭和37年 文化功労者顕彰
- 昭和37年 榊形町名誉町民
- 昭和38年 早稲田大学名誉博士
- 昭和39年 勲二等旭日重光章

博士の主な建築物

- 大正12年 日本興業銀行・歌舞伎座
- 大正14年 早大図書館
- 昭和2年 早大隈講堂
- 昭和5年 明治生命本館
- 昭和8年 大阪松坂屋
- 昭和11年 満州国中央銀行
- 昭和27年 広島平和記念堂
- 昭和29年 名古屋テレビ塔
- 昭和30年 大阪通天閣・山梨県民会館
- 昭和31年 別府タワー
- 昭和32年 さつぽろテレビ塔
- 昭和32年 別府タワー
- 昭和33年 東京タワー
- 昭和36年 博多タワー
- 昭和39年 山梨県庁

なぜ、東京の第一高を目指していたのでしょうか。そのころは工科といえば、東京高等工業学校（現東京工大）が、天下の秀才が集まることで有名でした。しかし、多仲は中学時代の先輩が、高の工科に入学したことが強い刺激となり自分も進みます。そこでは作家として有名になっていた夏目漱石に、英語を教わることとなります。

耐震建築の先駆者 東京タワーで集大成

一高から帝大に学び、大学院で耐震構造を研究した多仲は、26歳で早稲田大学教授に就任します。

大正6年にアメリカへの二年間留学を皮切りに世界各国へ視察に出かけ、その帰路の船の中で、旅行用トランクの仕切り板や船の構造からヒントを得て、耐震壁による「耐震構造理論」を発表

Tacyuu Naitoh



耐震構造理論に大きなヒントを与えたトランク

します。

この理論に基づき、日本初の耐震構造ビルとなる日本興業銀行本店を設計します。この7階建てビルは完成わずか3ヵ月後に発生した関東大震災にびくともせず、この理論の有効性が改めて実証されることとなります。

こうして多くの建築を手がけていきますが、テレビ放送が始まった翌年の昭和29年、日本初となる名古屋テレビ塔を完成させます。建築当時すでに東京タワーのように紅白に塗ることが義務づけられていましたが、多仲は美観上の理由から強く反対し銀色で押し通したという経緯があり、平成17年には、鉄塔では初となる国登録有形文化財に登録されました。名古屋テレビ塔建設後、通天閣、別府タワー、さつぽろテレビ塔と次々に手がけ、昭和33年ついに東京タワーを完成させます。333mの高さは今でも世界一を誇り、日本を代表する世界屈指の名塔です。

テレビは人をつないだ

日本のテレビ放送は、昭和28年2月にNHKが開始し、8月には民放も開始しました。放送開始直後はテレビの価格は高く、各家庭へテレビが普及するのには時間を要しました。当時はテレビがある家も少なく、隣近所でテレビのある家へ集まって見ていました。そ



の後の経済成長の発展に伴い電気冷蔵庫、電気洗濯機とともに三種の神器といわれ、家庭生活を大きくかえませした。テレビの普及にあわせるかのようになり、役目を果たしているテレビ塔ですが、テレビ放送のシステムが2011年までには地上デジタル放送に切り替わるため、これに対応するため新しいテレビ塔の建設が計画され、大きな任務を終えようとしています。

積み重ね 積み重ねても また積み重ね

昭和37年、文化功労者として表彰された功績をたたえ、榊形中学校正門前に胸像が建設されました。左手に教べん用のノートといつも持っていた計算尺を抱き、朝夕生徒にやさしいまなざしをなげかけています。